



ご挨拶

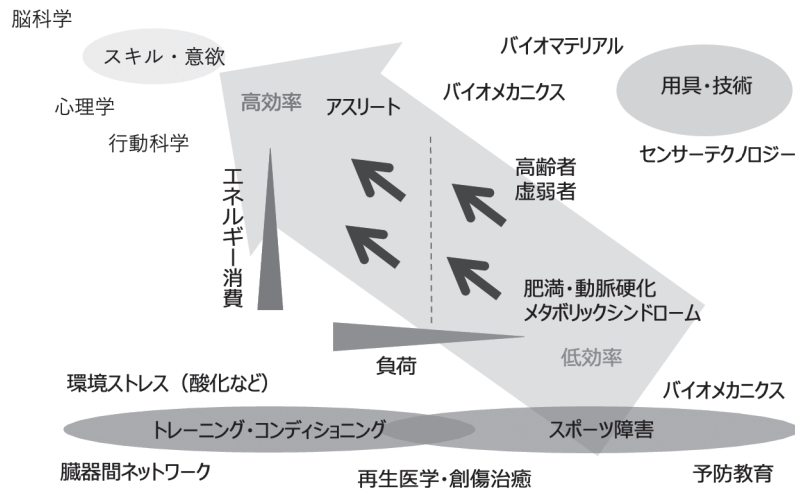
一般社団法人日本体力医学会理事長

永 富 良 一

「体力をつける」とよくいわれます。何のためにでしょうか？仕事、競技、勉強、健康などひとそれぞれ様々な理由や目的があります。しかしどのような方法でいつどのような体力をつければよいのでしょうか？なぜ体力がついたり、落ちたりするのでしょうか？体力をつけるには運動やトレーニングをするだけでなく、食事や睡眠など普段の生活習慣も重要です。病気の予防、病気を克服する力や、病気からの回復にも体力は重要です。体力に関して日々遭遇するこれらの疑問の全てが明らかになっているわけではありません。わたしたち日本体力医学会では、教員や学生、スポーツ指導者、保健医療関係者など多様な背景をもつ人たちがこれらの疑問に答えるべく挑戦しています。これが、わたしたちが取り組む体力科学です。会員の中には我が国の健康のための身体活動のガイドライン策定に貢献している研究者がいます。また国際学会で受賞したり、国際的な科学雑誌にその研究成果が発表されている若い大学院生や研究者が増えています。

体力科学は、医学を含む生命科学の一つのジャンルである以上、体の仕組みとしてその構造と機能を理解することがその基本です。また実社会でどのような課題が、どのような人たちに生じているのかを理解するためには多くの人たちを対象とした調査が必要です。したがって、体力科学も多くの医学研究と同様に、構造を解剖学、機能を生物学（生理学・生化学など）、社会を疫学や行動科学などを通じて理解することが基本になります。その研究成果を社会に還元するには社会や組織の仕組みに反映させていくための努力も必要です。マイクロ・ナノ・ピコなど微細な構造を観察する技術、センサー技術・情報通信技術・解析技術である人工知能の発展により、多量のデータを収集し解析することが可能になってきました。今まで未解決だったことが理解できるようになると同時に、出会ったことがない現象がみえるようになったことで、新たな謎が浮かび上がってきています。もちろん新しい技術により明らかになってきたことを社会にどのように伝えるかも重要です。科学への信頼が揺らいでいるともいわれている今日、わたしたちは責任をもって社会に研究成果を伝える役割を担っています。日本体力医学会の強みは上述したように、さまざまな領域の研究者がジャンルを超えた取り組みを行っていることにあります。

2020年からはじまったコロナウイルスによるパンデミックにより学会の学術活動は大きな制約を受けました。学問の発展にとって学術集会において研究成果や新しい課題を披露・共有し議論を行うことは不可欠です。コロナ禍で大きく発展したオンラインでのコミュニケーションはとても有用です。オンラインだけで学術集会を開催し議論することも可能になりました。しかし、対面で人が集まる学術集会でしか得られないコミュニケーションを越えることはできていません。日本体力医学会では2024年より単にこれまで開催してきた学術集会を復活させるだけでなく、新たな取り組みを行うことによって学会員の研究活動、情報交換、またまだ会員になっていないけれどわたしたちの取り組みに関心をもっていただける多くの方々に集っていただき、意見交換を行う場を発展させていきたいと考えています。とりわけこれからの学術活動を担っていく大学院生を応援し、体力科学・医学に興味をもつ大学生や高校生にも門戸を解放していきたいと考えてい



ます。2024年はパリオリンピック・パラリンピックの年でもあります。競技スポーツに取り組むアスリートたちの活躍を支える体力もわたしたちの重要な関心事です。一方、社会的に大きな問題になっている加齢にともなう認知機能・身体機能の低下に対してどのように対処するかもわたしたちの重要な関心事です。遊びの形が50年前とは大きく変わってしまった未来の社会を支えていくこともわたしたちの体力も重要な関心事です。

日本体力医学会は一般社団法人日本医学会連合のメンバーであり、日本医学会の第39分科会です。分子生物学から疫学までさまざまな手法を駆使し公衆衛生を通じた国民の健康、医療における身体活動・運動の重要性、また競技スポーツを通じて人類の可能性を究める取り組みを支える活動を続けていきます。わたしたちの学術集会は、国民スポーツ大会（旧国民体育大会）開催地で開催されます。また各地域には地方会が組織され学術集會が行われています。興味がある方は、是非学術集會にご参加いただき、忌憚のない意見をいただき、一緒に人に役立つ体力の科学に挑戦しましょう。

令和6年1月1日

一般社団法人日本体力医学会評議員申請要項

令和2年度より評議員選考内規が下記のように改定され、選考基準が若干緩和されました。また評議員推薦書の書式も若干簡略化されましたので、お目通しの上評議員の資格を満たすと思われる候補者についてはぜひとも奮って推薦・申請いただくようお願い申し上げます。

なお、とくに女性評議員の比率増加に努めておりますのでご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

I. 申請資格：下記、評議員選考内規をご参照下さい。

◎日本体力医学会評議員選考委員会評議員選考内規

昭和62年10月7日改定
平成6年11月18日改定
平成24年7月20日改定
平成28年8月26日改定
令和2年2月21日改定

1. 評議員候補者は、通算7年以上の正会員歴を有していなければならない。
2. 評議員候補者は、7年以上の研究歴を有し、体力医学、運動生理学、スポーツ医学などに関する十分な研究業績の著書、学術論文などの業績発表を有していなければならない。
3. 評議員候補者は、評議員3名の推薦をうけて、入会年月日を明記した履歴書および業績目録を添えて、評議員会開催2カ月前迄に評議員選考委員会に申請しなければならない。
4. 日本体力医学会の学会運営に必要と認められるものは、必ずしも上記条件を満たしていなくとも評議員選考委員会の議を経て、その推薦により評議員候補者となることができる。
5. 評議員選考委員会は、推薦された評議員候補者を審議し、評議員の資格を有すると認められたものを、理事会へ報告し、評議員会に推薦する。

付 則

- 1) 体力医学に関係する領域の学会で評議員を務めるかこの領域で博士の学位を取得しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 2) 日本体力医学会より授与された日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を有しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 3) 研究業績については、原則として、体力医学に関係する審査を受けた学術論文（原著論文、総説、短報、など）を筆頭著者として3編以上発表していることを基準として、評議員選考委員会で審議する。
- 4) 体力医学に関係する学会の学術大会等で大会長や組織委員会等より指名を受けた指定演題（特別講演、シンポジウム等）の口演発表を行った場合には、付則3)の審査を受けた学術論文の1編と同等の研究業績として評価し、評議員選考委員会で審議する。
- 5) 申請書類の送付先は 一般社団法人 学会支援機構内 日本体力医学会評議員選考委員会とする。

II. 申請手続きについて

下記書類をHPの評議員申請 (<https://plaza.umin.ac.jp/jspfs/councilor/index.htm>) からダウンロードの上、ご記入・ご提出下さい。

- 1) 評議員推薦書（評議員3名の氏名と会員番号が必要です）
- 2) 履歴書

3) 研究業績

申請書類の書式に不備があると審査不可として再提出を依頼する事があるので、規定に則て正確に記載して下さい。

Ⅲ. 承認までの流れについて

- ① 評議員申請書受付締め切り：2024年7月20日
- ② 提出期間満了後に評議員選考委員会で確認・選考を行う。
- ③ 同年9月に開催予定の理事会および評議員会総会において報告・承認を行う。

■ 申請書提出先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階
学会支援機構内
一般社団法人日本体力医学会評議員選考委員会
Tel：03-5981-6015（学会専用） Fax：03-5981-6012（学会支援機構）
E-mail：jspfsm@asas-mail.jp

評議員選考委員会 委員長 浜岡隆文

第176回日本体力医学会関東地方会のご案内

会 期：2024年7月27日(土) 12時～18時30分 (予定)
 会 場：国士舘大学多摩キャンパス メープルセンチュ
 リーセンター (MCCT) 301教室
 東京都多摩市永山7-3-1
<https://www.kokushikan.ac.jp/access/tama/>

テーマ：身体運動制御研究の新たな展開

会 長：中島 剛

(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科准教授)

大会スケジュール：

1. シンポジウム：身体運動制御研究の新たな展開

シンポジウムⅠ：神経系

演者：鈴木 伸弥 (杏林大学医学部)

小川 哲也 (日本女子大学家政学部)

田添 歳樹 (東京都医学総合研究所脳・神
 経科学研究分野)

シンポジウムⅡ：筋系

演者：黒坂 光寿 (聖マリアンナ医科大学医学部)

長名 シオン (国士舘大学体育学部)

阿藤 聡 (東洋大学健康スポーツ科学部)

2. 一般口頭発表 (発表時間 8分, 質疑応答 2分: 予定)

3. 特別講演：「大脳皮質からの運動性下行路：メカニズムと臨床応用 (仮)」

演者：大木 紫 (杏林大学医学部)

4. 情報交換会 (18:30～, 国士舘大学多摩キャンパス内で開催予定)

一般演題発表申込要領：

(1) 一般演題

一般演題発表を希望される方は、『一般演題発表申込フォーム』に演題名、および演者等をご記入の上、『抄録原稿』と併せてメール (tairyokukanto176@gmail.com) にて大会事務局までお送り下さい。お送りいただいた抄録原稿は学会の機関誌「体力科学」に掲載されます。なお、日本体力医学会非会員の方も一般演題に応募・発表できますが、体力科学への抄録原稿掲載を希望される方は当日、掲載料3,000円 (10%消費税込み) を徴収させていただきます。

(2) 一般演題発表資格

筆頭演者と共同演者を含め、日本体力医学会の会

員である必要はございません (非会員でも発表可能)。

ただし「非会員の筆頭演者」が機関誌「体力科学」へ抄録の掲載を希望する場合、3,000円 (10%消費税込み) の掲載料を頂戴することになっております。該当する方には別途メール等にて、抄録掲載のご意向を確認した上で、振込先をお知らせいたします。

(3) 抄録原稿

原稿は一題900文字以内で、表題、著者名、所属、本文を、和文で記述してください。

表題はゴシック体、著者名、所属、本文は明朝体とし、いずれも11ポイントのフォントサイズで、A4用紙1枚 (余白は上下左右25 mm) に作成してください。

共同研究の場合は、筆頭演者に○印を付してください。

本文は【目的】、【方法】、【結果】、【考察】などの順にまとめて記述してください。また、図表は掲載できません。

これらの『抄録原稿』はMicrosoft Wordで作成し、『一般演題発表申込フォーム』と併せて、大会事務局にメール添付の形で提出してください。

(4) 演題申込、および抄録原稿提出締切日

2024年5月27日(月)

(5) 一般演題発表方法

◎本大会での一般演題は、全てパソコン等を用いた口頭発表です。

発表8分、質疑応答2分になります。

※演題数が多くなった際には変更する可能性がございます。

◎発表で使用するパソコン等は、原則としてご自身でご準備いただきます。HDMI、またはVGA接続が可能なノートパソコン等をご用意ください。また、発表時の操作は発表者自身で行っていただきます。

※パソコンは事務局でも準備できます。希望される場合は、あらかじめ大会事務局にご相談ください。

編 集 後 記

体力科学第73巻2号をお届けします。本号は「新理事長ご挨拶」、原著論文3編、JPFISM, Vol. 13, No. 2の抄録(3編)で構成されています。投稿していただきました著者の先生方、ならびにご多忙の中、査読をお引き受けくださいました先生方に心より感謝申し上げます。

私は雑誌「体力科学」の編集委員を昨年9月に拝命しました。体力科学は、1949年から続く歴史ある雑誌で、その雑誌の編集委員に選んでいただき、本誌編集へ携わることができるだけでも名誉なことと思っておりますが、編集後記を書く機会を与えていただき大変光栄です。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、制限された生活から解放され人々の活動が活発化し、「今年こそは」と思っている矢先に2024年1月1日に能登半島地震が発災しました。被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。避難所生活や仮設住宅での生活が続き、また、被災地の瓦礫の撤去など問題は多々あるかと思いますが、早期復興を願っています。

さて、2024年はオリンピックイヤーです。今回は33回目のオリンピックでパリで開催されます。パリでの開催は1900年(第2回大会)、1924年(第8回大会)につづき3回目です。国際オリンピック委員会(IOC)では、1894年のIOC設立時の会議で「より速く、より高く、より強く」をオリンピックのモットーとして採用し、近

年、オリンピックの価値を「卓越性(Excellence)、友愛(Friendship)、尊重(Respect)」という3つのキーワードで表現し、世界の若い人々がこれを頭で理解するだけではなく、身をもって行動することを求めています。オリンピックでは、選手がより高い存在になるために努力し、周囲の関係者が選手を支えるなど、すべての過程に価値があります。今回もまた、我々はオリンピックで活躍する選手の姿に感動し、元気や勇気をもらう事になるでしょう。7月26日開幕、寝不足になること必至です。今回のオリンピックにおいても、皆様の研究成果が選手たちの一助になっていることでしょう。

最後になりますが、本号が発行される日は新年度の始まりです。今年2月、東京都心では最高気温が20℃を超え、2月20日の最高気温は23.7度だったそうです。今年2月の平均気温は8.5度で平年と比べると2.5度高いそうです。そうすると、皆様が本誌を読む頃は、桜の開花が早まり、入学式を前に桜が咲き誇っているかも知れませんね。心も弾む良い季節、皆様方にとって新年度の素晴らしいスタートが切れ、より多くの研究成果が出ることを願いますと共に、皆様からの本誌への論文投稿をお待ち申し上げます。

小林 哲士

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.73, No.2

体 力 科 学 第 7 3 巻 第 2 号

令和6年3月25日 印刷
令和6年4月1日 発行

編集兼発行者
発行所

編集事務局

印刷所

後藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社